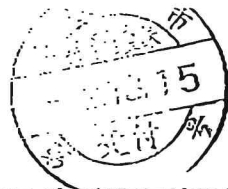


(別紙4(2))

目標達成計画



事業所名 グループホームあおぞら

作成日: 令和 2 年 10 月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 6 | 身体拘束に関するマニュアル及び禁止項目等を職員会議や研修会で正しく理解してケアに取り組んではいけるが徘徊がみられる入居者が外へ飛びだして行かれるので玄関を解錠出来ない状態でもある。 | やむを得ず拘束を行う場合でも、なるべく早く拘束しないケアが実現出来る。 | 身体拘束項目等を職員会議で取り組んではいけるが徘徊がみられる入居者が外へ飛びだして行かれるので玄関を解錠出来ない状態だが不審者の侵入防止もあり、できるだけ解錠時間を長くして解錠時には必ず見守りを行い寄り添う。 | 6ヶ月 |
| 2 | 26 | 利用者がより良く暮らす為に必要な介護計画を作成しているが職員・家族間の話し合いを設けて更新期間を短くする努力が必要である。 | 利用者の思いに沿った介護計画の作成を職員・家族間の話し合いで更新期間を短くする取り組みを行う。 | 利用者がより良く暮らす為に必要な介護計画を作成しているがプラン作成には更新期間を短く設定して職員・家族間の話し合いを設けて更新期間を短くする取り組みを行う。 | 6ヶ月 |
| 3 | 35 | 災害の時のライフラインの状態が長期化する事も想定し、食料の備蓄をより充実する事が必要である。 | 災害発生時、ライフラインの状態が長期化する事も想定し、食料の備蓄量を増やす事。 | 災害時のライフラインの状態が長期化する事も想定し、食料の備蓄量を増やす取り組みを行う。 | 1ヶ月 |
| 4 | 36 | 排泄状況を正確に把握する適切な支援を行うために、利用者のプライバシー確保の観点からは別の保管場所の検討が必要である。 | 排泄状況を正確に把握する適切な支援を行うためには、利用者の人格の尊重とプライバシーの確保が必要である。 | 利用者のプライバシー確保の観点から排泄状況を正確に把握する保管場所を職員で検討し変更を行う。 | 1ヶ月 |
| | | | | | |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。